

令和 3 年度第 11 回
フィットネスクラブ・マネジメント技能検定
1 級実技口述問題

実施日：令和 3 年 2 月 13 日 (日)
試験時間：考慮時間 15 分、口述試験 10 分

注 意

1. 口述試験の問題は、設問 2 つ (計 50 点満点) です。別途行う小論文の面接試験 (50 点) と合わせて、実技試験は 100 点満点です。
2. 筆記用具、電卓の持ち込みが認められています。
3. 法令等に関する問題については、特に指示のない限り、2021 年 4 月 1 日現在施行の法令等に基づいて回答して下さい。
4. 15 分間の考慮時間ののち、設問に対して面接官による 10 分間の口述試験を行います。考慮時間中は検討メモを作成しても構いません。(自分で作成したメモを口述試験の場に持ち込んでも構いません。)

会 場

受検番号	0	1	1		0	1	2	0	0		
------	---	---	---	--	---	---	---	---	---	--	--

氏 名

設問1 フィットネスクラブA(自店)は、首都圏のベッドタウンで、駅徒歩2分の好立地で2005年にオープンした。その後施設への投資は特に行われていない総合型フィットネスクラブである。最寄りX駅の乗降客数は一日、約10万人である。同地域の所得水準は全国平均をやや上回る。当クラブの会員は3km圏内居住者が8割を占めている。

現在の会員数は2,800名(大人のみ)であり、年齢層は高齢者が30%で、女性比率は60%である。この2年で会員は女性を中心に20%減少しているが、損益分岐会員数は2,500名である。利益の大半は会費売上で占めている。2年前に女性専用ジムB、1年前に24時間セルフ型のジムCとヨガに特化したスタジオD、がオープンしている。尚、5km圏内に総合型の競合店は新規出店していない。

問題1. B、C、Dで、対応策を考えるべき施設を1つ選び、その理由を3つ簡潔に述べよ。

問題2. 自店プール施設の優位性を活かした継続性を有する売上強化策を1つ述べよ。選定した強化策の実施について、その前提条件、想定される課題1つ及びそれぞれの解決策を2つ述べよ。

問題3. 下の競合対比表の自店備考欄にあるプロショップの売上は低調であり、このスペースを活かしたプロショップ売上以外の継続性を有する売上強化策を1つ述べよ。

また、選定した強化策の実施について、その前提条件、想定される課題を1つ、その解決策2つを述べよ。

尚、問題2,3での課題に対する回答として、価格設定、販売促進は除外する。

*近隣競合との対比表は以下の通りである。

競合対比表

クラブ名	Aクラブ	B施設	C施設	D施設
設立年	2005年	2019年	2020年	2020年
立地	X駅前徒歩2分	X駅前徒歩5分	X駅前徒歩3分	X駅前徒歩2分
会員数	2,800人	340人	650人	300人
施設規模	900坪	50坪	100坪	100坪
料金 (会員種別毎)	5,000~11,000円	5,700~6,700円	7,400円	6,800~9,800円 (利用回数券 制度あり)
営業時間 (平日)	9:30~23:30	10:00~13:00 15:00~19:00	24時間営業	9:00~22:00
休館日	毎週木曜	日・祝日	なし	毎週火曜
マシンジム	80坪	40坪	70坪	なし
スタジオ	2面(50坪+30坪)	なし	なし	40坪 (ホット機能)
プール	25M×5コース	なし	なし	なし
風呂	有り	なし	なし	なし
シャワー	有り	なし	有り	有り
駐車場	120台	なし	なし	なし
備考	ロッカールームの導線上にショップ35坪を持つ	女性限定サーキットトレーニング主体		女性限定

(ㄨ ㄜ)

設問2 フィットネスクラブAは地方都市の総合型フィットネスクラブである。このクラブもCOVID-19の感染拡大による自粛や風評被害により、会員の休会増や退会増で業績悪化傾向にある。

従来は、売上重視で、あまりコスト低減を意識してこなかった店舗運営責任者が、これを機にコストコントロールに取り組むこととした。ついては、以下に示された損益計算書から、店舗運営責任者として行うべき基本的な経費の削減・低減策について以下の問題に答えなさい。

問題1 下記の損益計算書で、フィットネスクラブAの店舗責任者として、販管費を売上高に対して3%（削減額7.26百万円）以上を削減・圧縮するとした場合、その対象となる主たる経費（費目または細目）について、この損益計算書から3つ選び、それぞれの具体策を2つ、またその具体策実施上の留意点を述べよ。さらに、選んだ費目・細目の各削減額及びその3つの合計額を述べよ。尚、賃料の低減交渉は解答から除外する。

Aクラブ損益計算書 単位：百万円

費目	細目	2019年
売上高		350
売上原価		10
売上総利益		340
販管費合計		281
人件費		108
	給与・賞与	37
	雑給 ^{※1}	46
	外注費 ^{※2}	15
	法定福利費	8
	福利厚生費	2
販売促進費		17
水道光熱費		40
消耗品費		10
リース料		13
地代家賃		40
修繕費		10
減価償却費		25
その他		11
営業利益		59

※1 雑給とはアルバイト・パートタイマー等臨時の従業員に対して支払った定期的な給料や諸手当を処理する費用細目勘定をいう。

※2 外注費とは会社の業務の一部を外部の業者へ業務委託またはアウトソーシングした場合の費用、請負に出した場合の費用、コンサルタントを利用した場合の費用等を処理する費用勘定をいう。

(メ モ)

(メ モ)

(メ モ)

